

2025.3.6

Dance Base Yokohama

愛知県芸術劇場



©Mai Taniguchi

©野村佐紀子

©Dan Bellman

©Yurie Nagashima

©matron2024

10月30日-11月2日に、フェスティバル形式で一挙上演！

愛知県芸術劇場×Dance Base Yokohama

パフォーミングアーツ・セレクション2025 開催決定

～DaBYと愛知県芸術劇場の共同製作で創作した作品群を愛知の複数の会場で初演～

2025年秋、Dance Base Yokohama (DaBY)は、愛知県芸術劇場およびメニコンシアターAoiと連携して、フェスティバル形式で「パフォーミングアーツ・セレクション2025」を開催します。本フェスティバルでは、愛知県芸術劇場芸術監督/Dance Base Yokohama アーティスティックディレクターの唐津絵理によるディレクションのもと、文化庁による文化芸術活動基盤強化基金を活用して2024年に開始したDaBYの新プロジェクト「世界に羽ばたく次世代クリエイターのための Dance Base Yokohama 国際ダンスプロジェクト“Wings”」などにおいて本年完成する作品群を上演します。観客の皆さまには、この秋開催の国際芸術祭「あいち2025」の期間にあわせて各会場を巡り、全プログラムを鑑賞いただけます。詳細やフェスティバル概要は夏頃に発表予定。どうぞご期待ください。

愛知県芸術劇場×Dance Base Yokohama

パフォーミングアーツ・セレクション2025 <日程(予定) / 会場 / 上演クリエイター>

ディレクション：唐津絵理 (愛知県芸術劇場 芸術監督/Dance Base Yokohama アーティスティックディレクター)

<10月30日(木)～11月2日(日)に開催予定>

①愛知県芸術劇場 小ホール

A)阿目虎南 B)小野彩加 中澤陽 スペースノットブランク

愛知県芸術劇場 大リハーサル室

C)三東瑠璃

②愛知県芸術劇場 中リハーサル室

D)柿崎麻莉子

<11月1日(土)、11月2日(日)>

④メニコン シアターAoi

E)岩淵貞太 F)高橋萌登

※A, B, D, E, Fは「世界に羽ばたく次世代クリエイターのための Dance Base Yokohama 国際ダンスプロジェクト“Wings”」において創作します

6組のクリエイターによる創作作品概要

A) 阿目虎南 『R/evolution(s)』

今回のテーマは「現代における身体感覚の再解釈」。自身の提唱する舞踏メソッド「Multi Layered Body」を通し、回転／革命を意味する「Revolution」に着想を得た創作に取り組みます。なお、3月にDaBYで開催するワークショップとショーイングを経て、参加ダンサーを決定します。

B) 小野彩加 中澤陽 スペースノットブランク 『ダンス作品第3番』

小野彩加 中澤陽 スペースノットブランクによる3番目の「ダンス作品」。独自の動きと振付を生み出すメカニズム「フィジカル・カタルシス」を用いて、日本文学を題材とした「ダンス作品」の制作に取り組みます。

C) 三東瑠璃／作品タイトル未定

見えない風、匂い、肌に触れるそうした感覚を大切に、見えないものを見ようとする試みを行います。これらの特徴を通じて、他者との共鳴や記憶と時間の交錯を映し出し、新たな表現に挑戦します。

D) 柿崎麻莉子／作品タイトル未定

2023年に発表した不眠を扱う作品『Can't-Sleeper』(DaBY×愛知県芸術劇場製作)に続き、今回は子どもとその親が気兼ねせずに劇場へ足を運べる、そして観劇が気軽な気晴らしになるような社会をめざし、創作します。

E) 岩淵貞太 『大いなる午後： the soft machine XXX』

肉体が持つ高度なテクノロジーは古代の呪術に宿るという仮説のもと、土方巽や大野一雄、室伏鴻などの舞踏家、諸アジアの伝統舞踊、憑依、幽霊、ニーチェ、北条民雄『いのちの初夜』などを参照。目に見えるものと見えないもの、死者と生者、古代的な儀式と現代のダンスフロアが重なる作品を創作予定です。

F) 高橋萌登／作品タイトル未定

日本の伝統的な怪談をベースに、現代のストリートダンススタイルであるHIPHOPを融合させたダンス作品を創作します。日本の怪談にまつわる特有の恐怖や哀愁、切なさといった情緒を、高橋独自のメソッドを用いたダンスとリズムで再解釈し、古典と現代の対話を試みます。

世界に羽ばたく次世代クリエイターのための

Dance Base Yokohama 国際ダンスプロジェクト “Wings” とは

“Wings”は、文化庁による文化芸術活動基盤強化基金（※）におけるクリエイター・アーティスト等育成事業の【舞踊部門】で採択された3件の事業* のひとつで、演出・振付家のほか、ドラマトウルク、制作や広報などの12名のクリエイターが、メンターや講師との対話や海外視察、見本市でのプレゼンテーションなどの研修を重ね、企画・創作・初演・海外発表・再演までのプロセスを体験するプロジェクトです。

2026年度終了までに、7名の演出・振付家による6作品を海外で上演することをめざし、メンターからアドバイスやフィードバックをもらいながら創作を進めます。

なお、7名の演出・振付家うちの1名である鈴木竜は2024年に“Wings”新作として『TAMA』を発表し、すでに海外展開に向けて準備を開始しています。

※文化芸術活動基盤強化基金

文化庁令和5年度補正予算において措置された補助金により、クリエイター・アーティスト等の育成及び文化施設の高付加価値化のために行う事業を実施するため、独立行政法人日本芸術文化振興会に文化芸術活動基盤強化基金が設立されました。

こちらの基金により、次代を担うクリエイター・アーティスト等の挑戦・育成が支援されるとともに、その活躍・発信の場である文化施設の機能強化について、弾力的かつ複数年度にわたっての支援が行われています。

*ほかの採択団体は、公益財団法人新国立劇場運営財団、公益財団法人日本舞台芸術振興会（東京バレエ団）です。

助成:



文化芸術活動基盤強化基金（クリエイター等育成・文化施設高付加価値化支援事業）
| 独立行政法人日本芸術文化振興会

クリエイタープロフィール



©Mai Taniguchi

阿目虎南 Conan Amok <振付家・ダンサー>

DaBYレジデントアーティスト。振付家・ダンサー。燦然CAMP主宰。A5yl/燦然光芒芸術監督。2010年、武蔵野美術大学彫刻学科卒業。大駱駝艦に所属(2008-1019)、磨赤兒に師事。ソリッドかつ緻密な身体性、メタ的でありながら熱狂を伴うダンス作品を制作。現象学・彫刻的視座に基づく舞踏技術「Multi layered body」を研究実践し、国内外でWSや公演を行う。また、舞台・ドラマ・映画・PV・CM等多数出演。Butoh Lab Camp講師(2023) 武蔵野美大特別講師(2023)などを務める。



©野村佐紀子

岩淵貞太 Teita Iwabuchi <振付家・ダンサー>

DaBYレジデントアーティスト。玉川大学で演劇を専攻、平行して、日本舞踊と舞踏も学ぶ。2007年より15年まで、故・室伏鴻の舞踏公演に出演、今日に及ぶ深い影響を受ける。05年より、「身体構造」「空間や音楽と身体との相互作用」に着目した作品を創りはじめる。10年から、大谷能生や蓮沼執太などの音楽家と共に、身体と音楽の関係性をめぐる共同作業に取り組む。12年、横浜ダンスコレクションEX2012にて、『Hetero』(共同振付:関かおり)が若手振付家のための在日フランス大使館賞受賞、フランス国立現代舞踊センター(CNDC)に滞在。自身のメソッドとして、舞踏や武術、老子などから触発された表現方法論「恍惚身体論」を開発。桜美林大学で非常勤講師を務める。LE SSERAFIMが好き。



©Dan Bellman

小野彩加 中澤陽 スペースノットブランク Ayaka Ono Akira Nakazawa Spacenotblank <舞台作家・振付家>

DaBYレジデントアーティスト。二人組の舞台作家・小野彩加と中澤陽が舞台芸術作品の創作を行なうコレクティブとして2012年に設立。舞台芸術の既成概念と、独自に研究開発する新しいメカニズムを統合して用いることで、現代における舞台芸術の在り方を探究し、多様な価値創造を試み続けている。固有の環境と関係から生じるコミュニケーションを創造の根源として、クリエイションメンバーとの継続的な協働と、異なるアーティストとのコラボレーションのどちらにも積極的に取り組んでいる。



©Yurie Nagashima

柿崎麻莉子 Mariko Kakizaki <振付家・ダンサー>

DaBYレジデントアーティスト。香川県出身、元新体操選手。Batsheva Ensemble Dance Company(2012-2014)に所属後、L-E-V Sharon Eyal|Gai Behar(2015-2021)に所属し、世界各国で公演・WS指導を行う。2011年韓国国際ダンスフェスティバル金賞、2013年度香川県文化芸術新人賞、2014年Israel Jerusalem Dance Week Competition、2020年日本ダンスフォーラム賞、2021年日本ダンスフォーラム賞、など受賞。2021年カルチャーセンター「beq」を熊本にOPENし、文化や芸術をカジュアルに楽しめる場を目指して活動中。「GAMAMA」を主催し、オンラインWSなどを実施。Gaga指導者。



高橋萌登 Moto Takahashi <振付家・ダンサー>

DaBYレジデントアーティスト。長野県出身。幼少よりクラシックバレエを始め、2011年から東京ELECTROCK STAIRSのメンバーとして活動。13年より創作活動を本格化し、ソロ作品でRencontres Choregraphiques Internationales de Seine- Saint-Denis、Festival Fabbrica Europaなど海外フェスティバルに多数招聘。17年、ダンスカンパニーMWMW(モウィモウィ)を設立。これまでに培ってきた表現やテクニックを凝縮したオルタナティブダンスをモットーとし、振付のみならず映像・音楽・ビジュアルデザインまで手掛け、独自の世界観を演出している。横浜ダンスコレクション2021で、審査員賞と城崎国際アートセンター賞をダブル受賞。ダンスグループMwnozで、かながわ短編演劇アワード2022グランプリ受賞。24年、カンパニー初の海外ツアーをアメリカ2都市(NY/Chatham)で行った。



©matron2024

三東瑠璃 Ruri Mito <振付家・ダンサー>

5歳からモダンダンスを始める。小学生にして「踊ることで生きる」と意識し、一筋に生きている。ソロ『Matou』(2015)は世界14カ国21都市で上演され続けている。振付の先にある、その人自身の身体から生まれる美しさ、生きる姿勢が浮かびあがるダンスを創り・踊り続け、国内外で注目を集めている。2017年にCo.RuriMitoを結成。